

# 性同一性障害の外来システムの問題点

岡山大学医学部保健学科，岡山大学大学院保健学研究科\*

大田有貴子，小寺菜見子，塩田萌，中塚幹也\*

## [目的]

岡山大学病院ジェンダークリニックでは性同一性障害（GID: Gender Identity Disorder）の診療を行っており，2003年にGID当事者に対して外来診察システムについてのアンケート調査を行い，各種の改善を行った<sup>1)</sup>．今回，岡山大学病院の現在の診療システムがGID当事者にとって満足いくものに改善されているかを明らかにし，問題点への対策を行うため調査を行った．

## [方法]

2009年7月～10月に，岡山大学病院ジェンダークリニックを受診したGID当事者のうち，同意の得られた153名に対して，無記名の自己記入式質問紙調査を施行した．本研究は岡山大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認のもと実施した．内訳はFemale to Male Transsexuals (FTM) 症例80名（平均27.0 [16～65] 歳），Male to Female Transsexuals (MTF) 症例63名（平均37.1 [17～63] 歳）であった．名前の使用状況は，戸籍上改名した名前36.1%，通称名31.6%，元々の名前25.2%，その他3.2%であった．戸籍上の性別変更を行っている当事者は9.7%であった．「望む性での生活」に関しては，していない9.4%，プライベートでのみしている36.2%，公にもしている51.7%，その他3.4%であった．

## [成績]

### 1. 診察券

岡山大学病院では，GID当事者が手続きをすれば，診察券の名前や性別の変更を可能にしているが，通称名を使用している当事者のうち，診察券の名前を変更しているのは40.8%，戸籍上性別を変更していない当事者のうち，診察券の性別変更をしているのは42.9%にとどまった．診察券の満足度は，診察券を「変更している」当事者では，「変更していない」当事者と比較して高率であった（満足度は各86.7%，12.5%）．変更可能であることを知らなかった当事者が高率であり，「変更していない」当事者の大部分が「訂正したい」，「仕方ない」と思っていた．

### 2. 呼び出し

病院内での呼び出しの時に希望する呼ばれ方について，「戸籍上改名している」場合は「戸籍上の姓名」が75.0%，「通称名を使用している」場合は「通称名」と「性のみ」それぞれ42.6%，改名せず「元々の姓名を使用している」場合は「性のみ」64.9%での呼び出しを希望していた．

### 3. 満足度

「待ち時間が長い」36.8%，「他の患者さんの視線が気になる」19.7%などが比較的高率であった．場所別にみると，「内科などGIDに関連しない外来」28.6%，「心電図・レントゲン検査」68.4%，FTM症例で「産婦人科外来」68.0%が比較的低率であった．検査技師の性別は，MTF

症例では「女性技師がよい」との回答が高率であった（43.9%）。

#### 4. トイレ

病院内で使用するトイレは、「受診時の服装に合わせたトイレを使用している」症例が、8割以上であったが、MTF 症例では「男女共同トイレを使用している」症例が 16.7%に見られた。

#### 5. その他

「GID 当事者同士が話せる場所や機会を設けてほしい」、「GID 当事者専用の診察室を設けてほしい」、「診察室から声が漏れているのが気になる」などが挙げられた。岡山大学病院と他施設とを比較すると、「大学病院の方が「良い」46.2%、「悪い」2.2%であった。

#### [考察]

診察券の姓名、性別の表記を変更することの満足感が高かったが、変更している症例は約 4割と低率であり、これには、変更可能であることが伝わっていないことが原因となっていると考えられた。2003 年以降、受付看護師から説明することにしてはいたが、クラークが受付に導入さたり、スタッフの交代などにより、伝達がうまく行われていないことが推測された。

待合での呼び出しについては、以前は紙カルテの表紙に当事者が希望する呼び方をメモし、スタッフ間で統一していたが、電子カルテへの移行とともに、呼び方を判断すること、統一して呼ぶことが困難になっていた。他の患者から見た性別とは異なる性である、カルテ上の姓名（戸籍上の姓名）で呼んでしまい他の患者の視線を浴びたり、とりあえず、「性のみ」で呼んだりすることが増え、希望通りにはなっていないことが増えている。電子カルテ上での工夫が必要であろう。

FTM 症例では産婦人科外来で待つことで「周囲からの視線が気になる」との感想が多く、少し離れた場所で待ってもらっているが、更なる改善が求められる。GID 当事者が受診する頻度の高い精神神経科、産婦人科、泌尿器科などでは満足度が比較的高いが、検査値異常などのため受診する他科、あるいは、心電図やレントゲン検査などを施行する部署では満足度の低い例が見られた。GID 当事者であることが伝わりにくいこと、あるいは、GID 当事者に対する対応がわからないことなどが原因と考えられ、各所のスタッフでの対応の確認などの作業が必要であると考えられる。また、心電図やレントゲン検査など上半身を露出する場合の検査技師に関しては、女性技師を希望する MTF 症例は多く、可能な限り対応も考慮すべきであろう。

トイレについては、女性装の MTF 症例でもトラブルを避けるため「男女共同トイレを使用している」場合も多く見られた。その場所を知らせるなどの配慮も必要である。

岡山大学病院と他施設の比較については、岡山大学病院の方が「悪い」との回答はほとんど見られず、「良い」との回答が 4 割以上に見られた。GID 診療はホルモン療法など他機関の協力が必要である。今回、岡山大学病院で得られた知見などを他機関に伝えていく努力も必要である。

#### [文献]

1) 中塚幹也, 秦久美子, 江國一二美, 高馬章江, 江見弥生. 性同一性障害の外来診療システムにおける問題点. 母性衛生, 46: 404-411, 2005